

# モモせん孔細菌病は雨除け処理で減少する

福島県農業総合センター 果樹研究所病害虫科

## 1 部門名

果樹—モモ—病害虫防除

## 2 担当者

七海隆之・柳沼久美子

## 3 要旨

雨媒伝染性の難防除病害であるモモせん孔細菌病は、降雨によって病原細菌が周囲に拡散・感染する。このため、本病が多発したモモ樹を対象に雨除け処理をしたところ、1年枝、新梢葉及び果実のいずれの発生も大幅に減少した。

- (1) 本病が多発したモモ樹(品種「ゆうぞら」7～8年生)を対象に、2015年9月～2016年8月(冬期間を除く)まで簡易雨除けハウス(間口5.4m×奥行き5.4m×高さ4.0m)を設置して雨除け処理を行った(図1)。なお、雨除け処理期間中は、春型枝病斑のせん除を調査毎に実施したが、果実への被袋、無機銅剤及び抗生物質剤の散布は実施しなかった。
- (2) 無処理区では、春型枝病斑の発生枝率が平均で11.1%、収穫時の発病葉率及び発病果率は平均でそれぞれ39.6%、63.5%となった(表1)。
- (3) 雨除け処理区では、春型枝病斑の発生枝率が平均で0.6%、収穫時の発病葉率及び発病果率は平均でそれぞれ0.6%、0.8%となった(表1)。
- (4) このことから、本病の発生には降雨の影響が極めて大きいことが改めて確認され、薬剤散布や罹病部位の除去等の防除対策は降雨前に実施することが重要である。



図1 ハウス設置による雨除け処理  
(2016年4月15日撮影)

表1 雨除け処理区及び無処理区のモモせん孔細菌病の発生状況

試験区	樹 No.	新梢葉調査 (2015年9月18日)			1年枝調査 (2016年3～8月累計)			新梢葉調査 (2016年8月24日)			果実調査 (2016年8月22日)		
		調査 葉数	発病 葉数	発病葉 率(%)	調査 枝数	発病 枝数	発病枝 率(%)	調査 葉数	発病 葉数	発病葉 率(%)	調査 果数	発病 果数	発病果 率(%)
雨除け 処理区 <sup>a)</sup>	I	252	214	84.9	459	3	0.7	337	6	1.8	326	1	0.3
	II	265	184	69.4	296	2	0.7	336	0	0.0	217	4	1.8
	III	257	182	70.8	250	1	0.4	353	0	0.0	225	1	0.4
	計	774	580	74.9	1005	6	0.6	1026	6	0.6	768	6	0.8
無処理区	I	293	206	70.3	476	70	14.7	402	169	42.0	299	202	67.6
	II	285	50	17.5	356	29	8.1	336	119	35.4	222	124	55.9
	III	308	65	21.1	274	24	8.8	329	135	41.0	122	82	67.2
	計	886	321	36.2	1106	123	11.1	1067	423	39.6	643	408	63.5

a)雨除け処理期間は、2015年9月4日～12月14日及び2016年3月30日～8月29日。

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成27年度～30年度
- (2) 研究課題名 モモせん孔細菌病の多発生産地における効果的な防除技術の開発  
モモ・ナシ病害防除技術体系の実証試験
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

## 5 主な参考文献・資料

(活用した事業名:農林水産省 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業(2015年)、  
農林水産省 革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト)(2016年))